



スーパービジョンとは？

人を援助する職種の人（スーパーバイザー）が指導者（スーパーバイザー）から教育を受ける過程とされています。

私達の事業所には、職歴3か月の新人ケアマネージャーから15年以上のベテランケアマネージャーまで 合計10名が在籍しています。

ケアマネージャーは、いろいろな利用者様に対応できるように、介護保険に関する専門的な知識を持つことはもちろんのこと、時としてフットワークの軽さや、ニーズ（必要性）をしっかりと聞き出す“ヒアリング（聴き取り）能力”、介護施設や医療機関との調整を行う“調整能力”、関係者を集め、利用者にとって最適なケアプランの遂行を進める「マネジメント能力」など、様々な能力が求められるため、いろんな知識や、経験も必要とされます。

介護職や看護職等を経て、ケアマネージャーの資格を取得し仕事を開始しても、すべての仕事を完璧に行うことはとても難しいものです。そこで、経験の浅い職員には、業務をまっとうするために必要なことを身につけるための方法として、いつでも相談できる体制づくりが必要とされます。

私達の事業所にとって、スーパービジョン体制の構築は重要です。スーパーバイザーの抱える悩みを一緒に考えることにより、指導者（スーパーバイザー）もさらに成長していきます。